

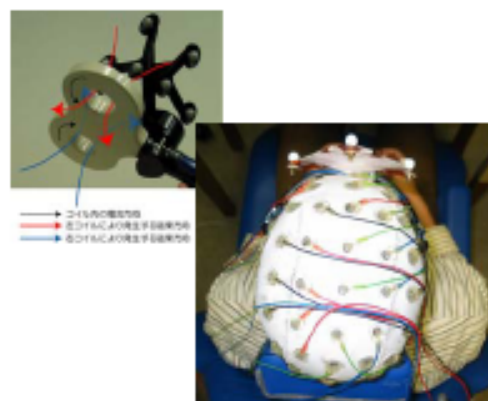
## 経頭蓋磁気刺激による高次脳機能障害の診断

### 経頭蓋磁気刺激による短潜時誘発成分の検討

#### なんのための研究？

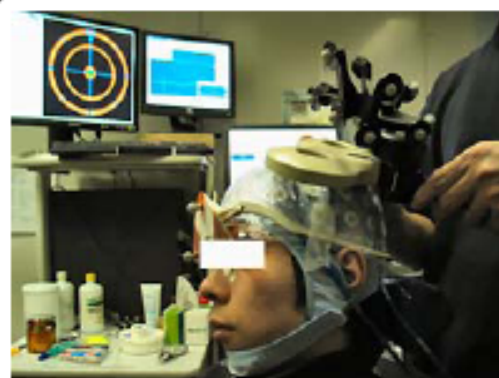
高次脳機能障害は近年、広く一般に知られ、社会保障の充実が進められてきました。ですが、びまん性軸索損傷と言われる疾病では、その診断が難しく、認定が受けられない方がいるという問題点がありました。

そこで、私たちはそのような症例の方々を対象にした簡便な診断手法の確立を目指し、検討をおこなっています。



#### 研究のポイントは？

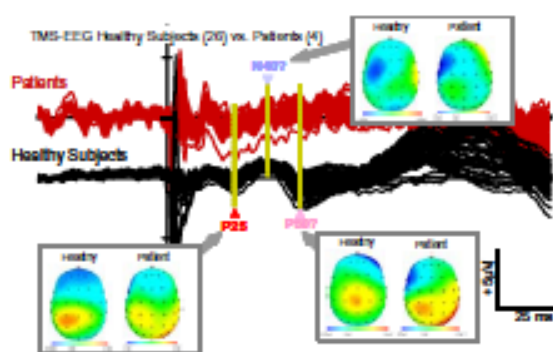
脳内では電氣的に情報が伝達されるという仕組みを利用し、その伝達様相によって検討をおこなっています。経頭蓋磁気刺激という手法で脳内に電気を起こし、その時の情報伝達を脳波によって測定します。刺激によって生じた脳内の電気活動を健常な方と比較することによって、診断可能となります。



#### 実用化に向けて

健常な方と比較して、びまん性軸索損傷の方では磁気刺激後1/10秒までの時間帯で脳波に大きな変化が認められませんでした。個人毎でも、健常な方と比較して脳波の変化が異なりました。

これらの結果を受け、現在は異なる分析手法との組み合わせを行い、更なる妥当性と信頼性の向上を図っています。



研究代表者

国立障害者リハビリテーションセンター研究所  
感覚機能系障害研究部  
氏名 takeuchi-shigeki@rehab.go.jp

